

桜陽高校だより

予測困難な時代の中で

～ファスト教養について考える～

校長 西川 勤



訓 校
賢く 強く 豊かに

学校教育目標

- (1) 研学に努め、知性を錬磨する。
- (2) 環境を整え、公共心を涵養する。
- (3) 責任を重んじ、道義心を涵養する。

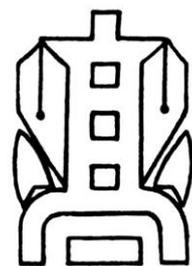
令和四年度も前期が無事終了しました。今年度は、四月八日に一八二名の新入生を迎え、全校生徒五七二名でスタートしました。

桜陽生は、礼儀正しく、何事にも前向きで、各種学校行事に対してもしっかり取り組んでいます。

コロナ禍の中、三年ぶりの桜陽祭も規模縮小ではありましたが、無事開催でき、生徒達の一体感と達成感を生み出すことが出来たことを大変嬉しく感じています。

また、勉強だけではなく、部活動にも九割近くの生徒が加入し、活発な活動を展開し、今年の高体連では、十の種目で全道大会に進出し、ポート部は全国大会に出場し活躍しました。高文連でも、五つの部が全道大会へ駒を進め、新聞局が全国大会に出場しました。

このような生徒の活躍に、歴史と伝統ある後志地区の中心校としての本校の存在意義を改めて認識し、その責任の重さを実感しています。さて、世界を震撼させている新型



目次

- P1 学校長
- P2 1 年次主任
- P3 教務部
- P4 ～8 部活動報告

第 105 号

令和4 年

9 月29 日発行

コロナウイルス感染症ですが、社会の課題を浮き彫りにする一方で、「CO2」技術を活用したリモートワークなど、新しい働き方を生み出す契機となりました。リモート会議も一般化しつつあり、アフターコロナにおいても継続することが予想されます。対面でしか伝わらない空気感もあります。対面でも、それぞれの利点を生かしつつ、コミュニケーションの一つの選択肢として補充しあい、これまでに以上に人と人とのつながりが円滑にできればと感じています。

世界では、地球上の環境破壊、紛争、差別、貧困などをなくし、持続可能な明るい未来を築くための指標として SDGs の 17 の到達目標 (Goal) が定められました。現状、コロナ禍による世の中の数か月先の見通しを立てることさえ難しい閉塞感、ロシアのウクライナ侵攻等国際情勢の不安定さや国内外における課題は枚挙に暇がありません。

より良い生活を求める中で、犠牲にしていることがないか、バランスを考え対処しなければならぬ難しい時代です。

課題解決には、多様な人々と知恵を出し合い、協働して取り組むことが求められる時代となりました。これまで得た知識を、場面に応じて活用し、自ら考えて課題を発見し解

決していく力。〇から1を創造する力」が求められています。困難は変革の原動力であり、よりよい社会の力となるともいわれています。

本校といたしまして、子どもたちに期待されるこれらの力が身につけられるよう今後とも教育活動を展開してまいりますのでよろしくお願いたします。

ところで、ここで最近気になっていることを一つ紹介し、皆さんと一緒に考えてもらいたいと思います。

かつて「教養」と言えば、「時間をかけてじっくり身につける」というニュアンスをとまなうものであり、『例解学習国語辞典』(第十一版)では、「教養」身についていた知識や、ゆたかな心。」と記載されています。そんな教養がいま「ファスト」な色合いを強めつつあるということ。狭義には、文字通り「ファスト教養」ファストに摂取できる教養コンテンツ」と捉えられています。YouTube チャンネルから書籍の要約サービスまで、ポイントだけを教えてくれることが価値となっているメディアは昨今いたるところに溢れています。食べやすく手軽にアクセスできる一方で、場合によっては栄養バランスが崩れているファストフードの教養版といったものを想像するとわかりやすいと思います。

「〇〇の理由は△△だ!!」と単純に言い切るコンテツツが溢れ、多くの人は、問題となつている「〇〇」や、その理由の「△△」より、「!!」というテンションで断言している状態に興奮しているのです。教養とは、そもそも「〇〇」と「△△」について反復しながら考える行為であつたものが、「!!」の勢いや、それを欲する観客の数によつて、教養が計測されるようになってしまつていくのです。

例えば、ひろゆきの著書『自分は自分、バカはバカ。』では、自身の発信の中で「バカ」という表現を躊躇なく使っています。ここに、「ゆたかな心」を感じることは到底できません。『こちら側』と『向こう側』に線を引いて、『向こう側』に対する優越感をくすぐることに特化した態度が果たして『教養』なのか。自分の方を向いてくれる人には「□□せよ!!」と熱い指示を出し、批判的に見てくる人には嘲笑を返す。指示と嘲笑が繰り返されているうちに、その人が何を言っていたかではなく、その人が「今日も強いことを言ってくれる感じ」に惹かれていく。明らかに間違つていても放置されている。安倍晋三元首相が襲撃された数時間後、堀江貴文が「反省すべきはネット上に無数にいたアベガー達だよな。そいつらに犯人は洗脳されたようなもんだ。」(原文ママ)とツイートしていた件も然り。

改めて「教養とは、学びとは、文化とは一体何なのか」を考え直していきたいとつくづく感じているところです。

結びになります。保護者の皆様の本校教育活動に對しましての深いご理解と心強いご支援に心から感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご理解とご支援を申し上げます。



『桜陽生のストロングポイント は?』

1年次主任 宮澤正行

平成二十四年四月に赴任して、一年目になります。着任と同時に学級担任を持ちました。その当時、他の先輩教諭は、着実に桜陽生の能力を伸ばしていることに驚かされました。簡単に言えば、「厳しさと優しさ」です。努力していない生徒には、徹底的に努力を促し、継続して努力している生徒には優しく、その過程を評価するという手法です。その後、部活動や生徒指導でその手法を意識するようになりました。これと同じくして、桜陽生の能力を伸ばすには何が必要なのかを強く意識するようになりました。マイナスを補い、プラスに変えるためのストロングポイント(強み)を考えました。

1 経験値

桜陽生は経験値が足りないと思われまふ。経験したことがないことに對して、極度の不安と非常に消極的な姿勢が見られます。例えば、その当時、サッカー部の遠征でいろいろな会場に行くのですが、精神的な不安ばかりが増幅し、勝負以前に「借りてきた猫」のようでした。しかし、遠征の経験値が上がってくるとその不安な精神状態は解消されました。何事に置いても自ら社会に飛び出して経験してみてください。やれば、必ずできます。

2 素直さ

今年、年次主任とともに学級担任も兼任しています。以前担任をもつた生徒よりも、今の生徒は素直です。先生方の話を良く聞いてくれま

す。ただ、残念なのが、言われたことしかやらないような感じがします。自分の可能性をもっと信じて下さい。自分で考え、実行に移してみして下さい。先生方や友人に自分から話しかけてみて下さい。若い時の失敗は何も問題になりません。素直プラスアルファに期待です。

3 優しさ

看護系や保育系を志望する生徒が多いためでしょうか、桜陽生は本当に他人に對して、思いやりや優しさがあります。本当に素晴らしいことです。私自身も体調を崩したときには心配して声を掛けていただきました。ただし、自分自身にも優しすぎませんか?その優しさ故に、自らの目標やこだわりまで曖昧にしているような気がします。時には、クラスメイトをライバルと見なすことや、他人の意見よりも自分の意見を優先して実行に移すことも大切で、自分の行動は自分で責任を持つという、ある意味、優しさから脱却した部分も必要です。

4 楽しむ心

三年ぶりに桜陽祭が開催されました。生徒の皆さんも不安な面が多々あったかと思えます。しかし、そんな不安は払拭されました。卒業した先輩達同様に、本当にこの祭りを楽しんでいました。過去2年間、中止となつていたにも関わらず、三年生のクラスステージなどは群を抜いていました。桜陽生は楽しむことにエネルギーを費やすことが得意なように思われます。例えば、サッカー部であれば、「チームで協力した方が楽しい」「負けるより勝つ方が楽しい」「真面目な話より冗談めいてい

るほうが楽しい」「走る練習よりボールを使った練習の方が楽しい」といった具合です。このことは、練習への取り組みや試合へのこだわりに大きく関係してきます。そして、学校活動全体に関係するものです。例えば、学習方法においても楽しむ気持ちを持ち、学習方法においても楽しむ気持ちを持たないという義務感ではなく、学習そのものが楽しいと思える方法に変えることはできないでしょうか？

5 多様な価値観

サッカー協会関係や自分自身の子どもを通じて、教育関係者以外の方にも人間関係が広がりました。その中で、自己紹介の場で「桜陽の教員をしています。」というところ、「私、桜陽出身なんです。」と返してくる方達に共通の人間性がありました。それは、多様な価値観を認めているということ。今、生徒の皆さんは学習成績という物差しで、人間性まで判定されている気分だと思います。それは、学生の時だけです。もちろん、学歴や成績は大切です。でも、社会に長く生きていければ感じるほど、人間性が大切だとつくづく感じます。桜陽出身の先輩方のように、自由に生き活きと歩んでいて欲しいですね。

特に、一年次の諸君には、桜陽生のストロングポイントを意識して、日々の生活を充実させて欲しいと思います。もうすぐ、入学してから半年が過ぎようとしています。あっと言う間でですね。これからも桜陽生活を楽しくて人間的な成長へと結びつけて欲しいと思います。これから、よろしくお祈りします。



「努力しているのに会社が評価してくれない」という社会人

教務部長 小川 将

昨今、若手社会人で上記のような悩みから離職や転職を検討する人が増えており、彼らは「上司は私のことが嫌いなんだ」「パワハラだ!」という他責的な結論に陥りがちで、最終的に「上司が何を言っているのかわからない」という趣旨のことを口にするそうです。私は、これこそがまさに大きな問題だと思えます。

何を見ているのかわからないままでは評価されようがありませんし、努力する方向性を間違えることにもなり、いつまでも評価されるようにはならないでしょう。これは何も社会人だけの問題ではありません。皆さんにも同じことが言えます。令和4年度入学生から高校の学習指導要領が更新され、「観点別学習状況の評価」、通称「観点別評価」が導入されました。観点別評価とは、生徒の学習状況を教科で設定した観点ごとに評価し、その実現状況を分析的に捉えることを目指した評価方法です。

従来の評価体制をなぜ変えたのかというと、それによって学習評価の改善と、それに伴った教育活動の質の向上が意図されているからです。

皆さんは、返却された答案の点数や通知表に記載された評定に一喜一憂し、それだけで終わっていませんか？それで満足してしまつては学習の改善につながりません。例えるなら、健康診断と健康維持の関係に似ています。健康診断で大切なのは、数値の良し悪し自体ではなく、それを踏まえてどう生活を改善させていくかです。

各教科が下記3観点について、どんな方法でどのように評価しているのかをしっかりと理解したうえで正しい方向に努力をしてください。また、努力した結果とその評価に大きな隔たりが生じているならば、評価されうる行動について改めて確認する必要があります。

観点別評価の内容(3観点)

観点①「知識・技能」
各教科の学習で身に付いた具体的な知識と技能を評価します。具体的な評価方法としては従来通りのペーパーテストや小テスト等が挙げられます。

観点②「思考・判断・表現」
各教科の学習で得た知識や技能を使って、実際に問題を解決するための思考力、判断力、そしてその表現力が適切に身に付いているかを評価します。ペーパーテストだけでなく、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動などを評価します。

観点③「主体的に学習に取り組む態度」「知識・技能」と「思考・判断・表現」を身に付けるため、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかという意思的な側面を評価します。ノートやレポート等における記述、授業中の発言など教師が行動観察し、さらに生徒による自己評価や相互評価等の状況を評価します。



部活動結果

【地区大会】

【バレー部】

◎小樽・後志春季大会

【男子】 優勝

【女子】 4位

◎北海道高等学校総合体育大会 小樽支部予選会

【男子】 準優勝

【女子】 予選リーグ敗退

◎小樽市スポーツ大会

【男子】 優勝

【女子】 3位

【柔道部】

◎高体連後志支部予選

団体戦

【男子】 優勝

【女子】 優勝

個人戦

【男子】

90kg超級

3位 2年 酒井

90kg級

1位 3年 角間

3位 3年 後藤
5位 3年 田口
73kg級
1位 1年 加藤

【女子】

48kg級

1位 1年 浦野
2位 1年 武藤

【サッカー部】

◎地区春季選手権大会

1回戦 水産 4-0

2回戦 倶知安3-1

決勝 北照 0-3

準優勝

◎選手権大会小樽支部予選

選

1回戦 対潮陵

0-0 (PK 4-3)

2回戦 対倶知安

1-1 (PK 5-4)

決勝 対北照 (0-4)

準優勝

【卓球部】

◎国体小樽地区予選卓球大会

【少年男子シングルス】優勝；安田優月、
3位；高橋颯太

ベスト8；山田一輝

薄田健治

9位代表；今堀凱仁

【少年女子シングルス】

優勝；山本寧美

ベスト8；三上琴璃

◎春季小樽支部大会

【男子ダブルス】

ベスト8；山田一輝・荒井

航太郎組

【女子ダブルス】

優勝；山本寧美・田村りん

組

【女子シングルス】

優勝；山本寧美

3位；田村りん

◎高体連小樽支部予選

〈男子学校対抗〉優勝

準決勝；桜陽3-2 倶知安

決勝；桜陽3-2 岩内

〈女子学校対抗〉第2位

〈男子ダブルス〉優勝；和田椿哉・安田優月組

〈女子ダブルス〉第2位

；山本寧美・田村りん組
〈女子シングルス〉
優勝；山本寧美、
第2位；田村りん

◎小樽卓球選手権大会兼

全道大会予選会

〈ジュニア男子シングルス〉

準優勝；高橋颯太

ベスト8；山田一輝、

薄田健治

【男子ダブルス】

ベスト8；高橋颯太・山田

一輝組

〈混合ダブルス〉

ベスト8；高橋颯太・笹原

千裕（潮陵高校）組

個人

男子

優勝

伊名野理叶（1年）

女子

優勝

本間陽音（2年）

第2位

吹越ゆい（2年）

第3位

山本晴月（2年）

◎小樽支部高校弓道新人大会

◎招魂祭奉納射会（少年の部）
男子の部：三浦昂輝（2位）
高橋悠太（3年）
◎高体連小樽支部弓道選手権大会
男子団体 2位
女子団体 3位
女子個人：本間陽音（2年）
3位

◎小樽市民スポーツ大会

弓道大会（少年の部）

団体2位：桜陽A（三浦昂輝2年・菅原飛羽2年・和田祐輝2年）

個人 男子

優勝

伊名野理叶（1年）

女子

優勝

本間陽音（2年）

第2位

吹越ゆい（2年）

第3位

山本晴月（2年）

◎小樽支部高校弓道新人大会

女子個人優勝

吹越ゆい（2年）

男子個人和田祐輝（2年）
女子個人山本晴月（2年）

3名南北海道出場
男子団体優勝・女子団体優勝
ともに南北海道大会出場



◎秋季大会小樽支部予選

2回戦

倶知安農業・蘭越・寿都・

小樽未来創造 13-4

準決勝 小樽明峰

12-4

決勝 北照 0-13

準優勝

【男子バスケットボール部】

◎春季大会

1回戦 对小樽水産

112-68

準決勝 对小樽潮陵

46-85

順位決定戦 对小樽明峰

120-54 (3位)

◎全国高校総体予選

1回戦 対倶知安

83-84

【女子バスケットボール部】

◎春季大会

準決勝 对小樽潮陵

48-62

順位決定戦 对小樽未来

創造 80-25 (3位)

◎高校総体予選

1回戦 对小樽未来創造

72-39

決勝リーグ

1試合目 对小樽潮陵

51-67

2試合目 对小樽双葉

39-91

3試合目 对小樽水産

86-44

女子3位

優秀選手賞 今野純菜(3

年)

【バドミントン部】

◎春季大会

男子ダブルス

市川・嶋屋 ベスト8

女子ダブルス

土岐・本間 4位

男子シングルス

市川三士郎 4位,

嶋屋秀人 ベスト8

◎高校選手権大会小樽支

部予選会

男子ダブルス

市川・嶋屋 3位

女子ダブルス

土岐・本間 ベスト8, 檜

崎・世戸 ベスト8,

丸山・千葉 ベスト8

男子シングルス

市川三士郎 4位,

嶋屋 秀人 ベスト8

男子団体 4位

女子団体 一回戦敗退

◎小樽地区バドミントン

選手権大会

男子ダブルス

金澤・大瀧 3位,

永原・志和 4位

男子シングルス

金澤 俐玖 準優勝

女子ダブルス

金田・本間 4位,

檜崎・坂井 ベスト8,

世戸・高橋 ベスト8

【テニス部】

◎小樽支部春季大会

男子シングルス 2位

◎小樽支部選手権大会

団体戦

男子2位・女子3位

個人戦シングルス

男子優勝 山形

個人戦ダブルス

男子3位 山形・土谷組

◎国体後志地区予選大会

少年男子シングルス

優勝 山形

少年女子シングルス

準優勝 宮村

◎小樽ジュニアシングルス

選手権大会

男子16才以下

優勝 津田

女子18才以下

3位 宮村

◎小樽ジュニアダブルス

選手権大会

男子18才以下

優勝 山形・本間組

男子16才以下

優勝 津田・須貝組(他校

合同)

【ラグビー部】

◎高体連小樽支部大会

対 小樽潮陵

5-47 準優勝

【ソフトテニス部】

◎小樽支部春季団体ソフトテニス大会

女子団体 3位

◎高校ソフトテニス選手権大会小樽支部予選会

男子団体 優勝(全道)

女子団体 準優勝

男子ダブルス 優勝

山口(2-5)・加我(2-1)ペア(全道進出)

1)ペア(全道進出)

準優勝 横道(1-2)・加藤(1-1)ペア(全道進出)

女子ダブルス 第4位

藤原(2-5)・棚田(3-1)ペア

3)ペア

第4位 菊地(2-3)・櫻井(3-2)ペア

◎小樽支部ソフトテニス高校国体予選大会

男子ダブルス 優勝

山口(2-5)・加我(2-1)ペア(全道大会進出)

1)ペア(全道大会進出)

準優勝 横道(1-2)・加藤(1-1)ペア(全道大会進出)

女子ダブルス 優勝

山口(2-5)・加我(2-1)ペア(全道大会進出)

1)ペア(全道大会進出)

準優勝 横道(1-2)・加藤(1-1)ペア(全道大会進出)

女子ダブルス 優勝

山口(2-5)・加我(2-1)ペア(全道大会進出)

藤原(2-5)・本間(2-3)ペア(全道大会進出)

3)ペア(全道大会進出)

第3位 三島(3-1)・棚田(3-3)ペア(全道大会進出)

田(3-3)ペア(全道大会進出)

第4位 羽立(恋)(1-2)・松井(野)(1-3)ペア

◎小樽支部高校新人ソフトテニス大会

男子団体 優勝(全道大会進出)

女子団体 優勝(全道大会進出)

男子ダブルス 優勝

山口(2-5)・加我(2-1)ペア(全道大会進出)

2)ペア(全道大会進出)

準優勝 横道(1-2)・加藤(1-1)ペア(全道大会進出)

女子ダブルス

山口(2-5)・加我(2-1)ペア(全道大会進出)

2)ペア(全道大会進出)

準優勝 横道(1-2)・加藤(1-1)ペア(全道大会進出)

女子ダブルス

山口(2-5)・加我(2-1)ペア(全道大会進出)

2)ペア(全道大会進出)

準優勝 羽立(恋)(1-2)・松井(野)(1-3)ペア

男子シングルス 優勝

山口(2-5)・加我(2-1)ペア(全道大会進出)

山口(2-5)・加我(2-1)ペア(全道大会進出)

山口(2-5)・加我(2-1)ペア(全道大会進出)

山口(2-5)・加我(2-1)ペア(全道大会進出)

山口(2-5)・加我(2-1)ペア(全道大会進出)

山口(2-5)・加我(2-1)ペア(全道大会進出)

会進出)

準優勝 加我昂大(2-1)ペア(全道大会進出)

1)ペア(全道大会進出)

女子シングルス

優勝 森愛凜(2-3)(全道大会進出)

第3位 本間彩華(2-1)ペア(全道大会進出)

3)ペア(全道大会進出)

第4位 藤原叶帆(2-1)ペア(全道大会進出)

5)

【放送局】

◎NHK杯全国高校放送コンテスト後志支部大会

朗読部門：2-5佐藤美咲

2位(全道大会進出)、3-1

3 神尾翔太7位、

2-2 吉田暖菜7位、

1-2 遠藤良太11位

創作ラジオドラマ部門：1

位(全道大会進出)

◎高文連後志支部書道展・研究大会

特選：3-3 計良 優稀乃

(全道大会出品)

【美術部】

◎高文連後志支部美術展・研究大会

全道推薦：2-5 小松谷咲良

佳作(全道推薦次点)：3

1-3 橋本雅、松岡愛唯

入選

3年 金本明里「彼女の夏」

3年 松原蒼衣「暗」脳に書き込め！」

2年 倉田玖音「奇々怪々」(全道進出)

佳作

3年 金本明里「楓」

3年 松原蒼衣「軍艦島」

3年 井上愛梨「仲良し」

3年 黒田ひなた「薄紅」

2年 成田愛由「野生」

2年 花山路佳「海辺」

【軽音楽部】

◎We are SNEAKER AGES 第5回北海道地区動画予選会

第5位(全道大会進出)

塚原(2-1)、安藝(2-1)

2)、石塚(2-2)、松見

(2-2) 吉田(2-2)、三

益(2-3)、小松谷(2-5)

【全道大会】

【卓球部】

◎国体卓球北海道予選会

【少年女子シングルス】

1 回戦敗退；三上琴璃

2 回戦敗退；山本寧美

【少年男子シングルス】

1 回戦敗退；山田一輝、薄田健治

2 回戦進出；安田優月、今堀凱仁、高橋颯太

◎高文連後志支部写真展

研究大会

特選：3-3 計良 優稀乃

(全道大会出品)

◎全国高等学校卓球選手権大会北海道予選会

【男子学校対抗】

1 回戦

桜陽 3-1 札幌月寒

2 回戦

桜陽 0-3 帯広工業

【女子学校対抗】

1 回戦

桜陽 3-1 標茶

2 回戦

桜陽 1-3 札幌龍谷

女子シングルス

1 回戦敗退；田村りん

2 回戦敗退；山本寧美

男子ダブルス

2 回戦敗退

和田椿哉・安田優月組

女子ダブルス

1 回戦敗退

山本寧美・田村りん組

【陸上競技部】

◎全国陸上選手権大会北海道予選会

男子 100 m

岡 玲紫 8 位

男子 200 m

岡 玲紫 準決勝進出

小笠原 翔 予選敗退

男子 400 m

佐藤 康生 予選敗退

男子 1500 m

下地 温斗 予選敗退

男子 5000 m

板橋 悠賀 予選敗退

下地 温斗 予選敗退

男子 110m ハードル

佐藤 康生 予選敗退

男子 400 m ハードル

佐藤 康生 準決勝敗退

八重樫 慧 予選敗退

男子 3000m 障害

木下 陸久 予選敗退

男子 5000m 競歩

土屋 拓夢 予選敗退

男子 4×100 m リレー

山本 岡 齊藤 小笠原

予選敗退

男子 4×400 m リレー

八重樫 板橋 下地 菊

池 予選敗退

男子 三段跳

山本 拓実 予選敗退

男子 ハンマー投

岡 玲紫 予選敗退

女子 100 m

日野 咲夢 予選敗退

女子 走幅跳

日野 咲夢 予選敗退

◎日本陸上競技選手権大会北海道予選会

男子 100m

岡 玲紫 予選敗退

小笠原 翔 予選敗退

男子 200 m

岡 玲紫 準決勝敗退

小笠原 翔 予選敗退

男子 4×100m リレー

山本 岡 齊藤 小笠原

予選敗退

女子 100m

日野 咲夢 予選敗退

女子 走幅跳

日野 咲夢 22 位

◎国体陸上競技大会北海道選手権大会

少年 A 男子 100 m

岡 玲紫 6 位

少年 B 男子 100 m

小笠原 翔 予選敗退

【バドミントン部】

◎北海道高等学校バドミントン選手権大会

男子ダブルス 市川・嶋屋

一回戦敗退

◎全日本ジュニア出場選手権大会(南北海道)

男子シングルス

金澤 俐玖 一回戦敗退

◎北海道バドミントン選手権大会(高校の部)

男子ダブルス

金澤・大瀧 一回戦敗退

男子シングルス

金澤 俐玖 一回戦敗退

【テニス部】

◎北海道高校選手権大会団体戦 対函館中部

2-1 一回戦敗退

シングルス

男子 山形 二回戦敗退

女子 宮村 一回戦敗退

ダブルス 植木 一回戦敗退

男子 山形・土谷組

◎国体北海道予選会

少年男子 山形

二回戦敗退

少年女子 宮村

一回戦敗退

【ソフトボール部】

◎北海道高等学校ソフトボール選手権大会

0-1-2 対札幌啓成

一回戦敗退

【ソフトテニス部】

◎ソフトテニス選手権大会

男子団体 加我(2-1)、山口(2-5)、加藤(1-1)、横道(1-2)、奥山(1-4)、小山(1-4)、高島(1-4)、古川(1-5) 1 回戦敗退(対北見北斗 0-3)

男子ダブルス 山口(2-5)・加我(2-1) 1 回戦敗退(対帯広農業) 0-4

横道(1-2)・加藤(1-1)
1)ペア 1回戦敗退(対
登別明日) 0-4

◎北海道高校国体大会

男子ダブルス

山口(2-5)・加我(2-1)
1)ペア 1回戦敗退(対
留萌) 3-4

横道(1-2)・加藤(1-1)

1)ペア 1回戦敗退(対
釧路商業) 1-4

女子ダブルス

藤原(2-5)・本間(2-1)

3)ペア 1回戦勝利(対
滝川) 4-1

2回戦敗退(対札幌龍谷)

1-4

三島(3-1)・棚田(3-1)

3)ペア 1回線敗退

対札幌真栄中 2-4

【柔道部】

◎北海道高校柔道大会

男子団体戦

予選リーグ敗退

女子団体戦

対 石狩翔陽 勝

対 札幌北斗 敗

男子個人戦

73歳級 1年加藤勇哉

ベスト16

81歳級 3年後藤皇

1回戦敗退

90歳級

2年角間礼 3年田口結

斗 1回戦敗退

100歳級 2年酒井海

聖 1回戦敗退

女子個人戦

48歳級

1年 浦野満帆 武藤美

久 1回戦敗退

52歳級

3年 浅見妙圭 2回戦

敗退 3年 金田海音

1回戦敗退

【ボート部】

◎北海道高校ボート選手

権大会

男子ダブルスカル 向井

(3-1)・前山(3-4)

優勝 全国高校総体出場

男子シングルスカル(南

(2-3) 第3位

男子シングルスカル(中條

(2-2)敗者復活戦 敗

退

女子ダブルスカル(福士

(1-3)・柴田(1-1)

第2位

◎国体ボート競技 北海

道ブロック予選会

男子舵手付きクオドルプ

ル

前山(3-4)・服部(3-1)

3)・内藤(1-1)・本多

(1-1)・中條(2-2)

第4位

男子舵手付きクオドルプ

ル(北海道選抜) 向井(3

1) 優勝 国体出場

t

男子シングルスカル(南

(2-3) 第3位

女子ダブルスカル(柴田

(1-1)・福土(1-3)

敗者復活戦 敗退

【放送局】

◎「Nコン」北海道大会

創作ラジオドラマ部門

出品

朗読部門 佐藤美咲(2-

5) 参加

【全国大会】

【ボート部】

◎全国高等学校総合体育

大会 四国総体(愛媛)

男子ダブルスカル(向井

(3-1)前山(3-4)

予選通過

準々決勝進出

【新聞局】

◎令和4年度全国総文祭

北海道代表 参加

【山岳部】

◎スポーツクライミング

第10回リードユース日

本選手権南砺大会

吉田ゆな(3-1) 18位

(カテゴリー：ジュニア女

子)

◎スポーツクライミング

第8回ボルダリングユ-

ス日本選手権倉吉大会

(鳥取県)

吉田ゆな(3-1) 16位

(カテゴリー：ジュニア女

子)

